

---

ありがとう

翠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ありがとう

### 【Nコード】

N0818B

### 【作者名】

翠

### 【あらすじ】

きっかけは私に向けられた友達の一言。「好きらしいよ。」

## （前書き）

ちよこっただけ実話です。

好きになるのに時間はかからなかった。  
いつも一生懸命で、さりげなく優しい彼に・・・私は気付いてしま  
った。

最初は気にしてなかった。  
でも、

友達の一言で私の心は・・・。  
動き出してしまった。

「好きらしいよ。」

そんな事言われたら・・・。

気にしなかったものも気になるようになったらうよ・・・。

そうになると・・・

いつも何気なく一緒に帰っていた帰り道も・・・。

よく質問に来る君の一生懸命な姿も・・・。

話し方も・・・。

気になって気になってしかたない。

いつの間にか好きになってる自分がいた。

友達の一言がきっかけなのは本場で、それってどうなのかなって自  
分でも思っけど、でも好きになってしまったのは本当だから。

この気持ちは本物だから。

いままで気にしていた男子のこと全然気にならなくなって・・・  
代わりに、君と目が合うとドキドキが止まらなくて。

微かな喜びを感じていた。

手を振ると振り替えしてくれて、

冗談を言い合えて、  
腕相撲なんかしてみたりして、  
一緒に帰って・・・  
目が合う。

いつも君の瞳は痛くて。  
私の恋心を甘く、切なく、痛める。

問うてみたくなる。

「ねえ、私の事が好きって本当？」  
でも、

どうしても言えない。

いつも君といるときに感じる視線があるから。  
彼女の方が私より先に君の事を好きになって、  
それを私は知っていて・・・。  
どうしようもない。

言えるに言えないこの気持ち。

だめだって分かっているても  
どうしても君と一緒にいたかった。

一瞬でもいいから、君と話していたかった。  
彼女の視線が痛くて。

でも君を好きな気持ちも止められなくて。

彼女は言う。

「もう好きじゃないよ。」  
でも。

そんなの嘘。  
知ってる。

知ってるよ。

本当は好きなんですよ？

嘘言わないで……。

そんな言葉を聞いたら、私の心は黒い喜びを知ってしまうよ。

じゃあ、いいの？

私が彼を好きでいてもいいの？

そんな言葉が脳裏をいつまでも回り続けてしまう……。

友達と言う。

「どっちを選ぶかはアイツ次第でしょ。」

じゃあ……。

好きでいてもいいの？

「好き。」

強い衝動に押されて口から転げ落ちた……。

「えっ？」

電話越しに聞こえる君の戸惑った声。

不意に君の声が聞きたくなってかけた電話。

君の優しい声を聞いていたら……。

思わず……。

私の頭は真っ白で、

言っちゃった……。

どうしよう……。

この二言がぐるぐるぐるぐる……。

「うん。うん。え」と。うん。」

電話越しに聞こえる君の声はそればかりを繰り返していて。私は今にも泣き出したい衝動を必死に抑えてて。

どっちなの？好きなの？嫌いななの？

友達から聞いた一言が本当である事を願っていた。

「え」と。うん。俺も。俺も好きです。」

やっと聞き取れた一言。

思考回路が揺らぐ。

「本当に・・・？」

信じられなくて・・・。

少しの期待も、言ってしまったたらあっけなく崩れ去って。そんな中、聞こえた君の声が信じられなかった・・・。

「なんか、こういうのって照れるね。」

って君の声。

そんなの・・・愛おしすぎるよ・・・。

「ありがとう・・・ありがとう・・・。」

私を好きになってくれて・・・ありがとう。

流れた涙はほんのり温かった・  
・  
・。



（後書き）

読んでいただき、有難うございました。

好きな人に「好き」っていつてもらえるのって、すごく嬉しいんですね。

まだまだ未熟な物しか書けませんが、これからも頑張っていきますので、出来れば、感想などいただけると嬉しいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0818b/>

---

ありがとう

2011年1月18日20時43分発行